

B301相談室

花輪 大輔

vol. 1

Q1. 「美術の評価」ってどうすればいいの？

Q2. 「表現技法」の指導はどうすればいいの？

Q3. 「レタリング」の指導はどうすればいいの？

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！

日文

検索



未来をにう子どもたちへ

日本文教出版

Question 01

美術の評価って どうすればいいの？

花 輪 :今日は二人ともよく来てくれたね。
A 先生 :お久しぶりです。今日はよろしくお願いします。
B 先生 :卒業以来で懐かしいです。
花 輪 :二人とも4月に採用になって4ヶ月ほど経つけど、学校の仕事には慣れたかな？
A 先生 :まずまずといったところです。忙しさに目が回っていますが、楽しく過ごせています。
B 先生 :まわりの先生たちに助けてもらいながら。なんとかって感じです。授業では生徒たちに助けられています。
花 輪 :元気そうで何よりです。
さて、若手の先生のための「美術の授業のお悩み相談室」というのがこの勉強会の趣旨なんだけど、今一番相談したいことってどんなこと？
A 先生 :んー。色々あるんですけど……。一番と言われると……。時期的に学期末の評価でしょうか。
B 先生 :一応自分なりにやってはいるんですが……。
花 輪 :なるほど……。評価ね……。それは深刻だなあ。学部の授業で話しているんだけどね……。
A 先生 :すみません……。
B 先生 :もっとしっかり聞いておけばよかったと反省しています……。
花 輪 :いやいや。生徒たちを目の前にした状況だと必要感が違ってくるよ。では、美術の評価について解説するね。
ところで、「評価」と「評定」の区別は大丈夫かい？
A 先生 :それくらいはわかっています。
B 先生 :個人内評価と観点別評価ですよ。観点別評価を総合したものが学期末の評定であってま

すよね？

花 輪 :大丈夫みたいだね。生徒に対する言葉かけや価値付けも個人内評価だからね。
では、観点別評価は具体的にどのようにしているのかな？
A 先生 :「発想・構想の能力」はワークシート、「創造的な技能」は作品から判断しています。
B 先生 :作品からそれぞれの観点に点数をつけていくのって結構大変で……。
花 輪 :あらら……。学部の時に話したことってなかなか伝わらないんだなあ。私も授業改善をしなければ……。
では、ポイントを絞って解説していくよ。

Point 1 昭和時代の評価の遺産

例えば、作品の完成度や丁寧さをABCで評価して、それを創造的スキルとするのは大きな間違いです。

平成元年の学習指導要領改訂以前は、評価の観点が絵画・彫刻・デザイン・工芸・鑑賞となっていたため、その様な評価も見られましたが、平成以降にそれは求められていません。資質・能力の発揮の視点での評価が大切ですよ。

先生はエスパーではありませんから、授業中にすべての生徒の表現意図等を把握は難しいと思います。ですから、ワークシートや作品を授業中に「見取り」きれなかった要素を補完するための評価情報として用います。

目標として設定していない要素は観点には反映せず、個人内評価として区別をします。

Point 2 目標に対する絶対評価かつ現状評価

評価がわからないのは目標がわからないのと同じです。本時の目標はそれぞれの評価の観点と対応させるので、目標は「～する」、評価規準は「～している」となります。つまり現状の姿を評価の対象とします。例えば発想・構想の観点では、「主題を考える」目標に対して「主題を考えている」が評価規準となります。

本時の目標に対する生徒の資質能力の発揮、いわゆる“姿”が十分満足なのか、概ね満足なのかを評価することが求められています。ですからこの場合、主題を考えていた生徒はまず全員が“B”，Aとするキーワードに該当する生徒が“A”となります。そして主題を考えられていない“C”の生徒を“B”の姿にするための働きかけを考えることが重要です。



花 輪 : ちょっとざっくりしているけど、3つのポイントに絞って解説をしました。二人の困り感に対する解決の糸口になったかな？

A 先生 : 学部生の時に聞いたことを思い出しました。できればもう一回講義を受けたい気分です。形成的評価の視点は盲点でした。

B 先生 : 日々の雑務に追われて、作品やワークシートを中心に評価をしていました。観点別評価の形式のみにとらわれていたかもしれません。改めます……。

花 輪 : 新しい学習指導要領の全面実施に向けて評価の指針も文部科学省が出しているけど、「評価のための評価」になってはならないとしています。

あくまでも、授業は子どもの成長のためにするのであって、評価のためにするのではないし、形成的評価の視点のない美術の授業は“美術嫌い”の生徒を量産してしまいかねないと思うよ。

A 先生 : やばいですね……。気をつけなければ……。

B 先生 : そうですね。学校に戻ったら、これまでの指導と評価を振り返ってみたいと思います。評価のこと以外にも、もっともっと聞きたいことがあります。

花 輪 : 周りの先生や生徒に助けてもらいながら、一步一步「美術の先生」として成長してほしいし、それを支えたいと思っています。私にできることがあれば、いつでも相談してくださいね。二人の成長を心から期待しています。

Point 3 最も重要なのは「形成的評価」を心がけること

一般の教育活動全般において、指導をすれば評価は伴い、学期末や学年末には評定をしなければなりません。しかし、いわゆる“成績”をつけるために美術の授業をするのではありません。

この教科は表現や鑑賞の活動が中心になりますから、生徒一人ひとりにとってその「活動が有意義なものとなるための指導と評価」ということを忘れてはなりません。形成的評価は、どこまでが評価でどこからが指導かの判別が難しいと言われていますが、一人ひとりの生徒が資質・能力を発揮するための働きかけを工夫したいものです。

Question 02

「表現技法」の指導は どうすればいいの？

A 先生：実は……，2学期に1年生で「遠近法」を取り上げたいと思っているのですが……。

B 先生：1年生の教科書や資料集にも載っているよね。それがどうかした？

花 輪：おっ，今度の質問は具体的な授業の内容になったね。何を聞きたいのかな？

A 先生：いや……その……，一点透視法で立体図形を描かせる授業は相応しくないって花輪先生が講義で言ってましたよね？
だったらどうすればいいんですか？

B 先生：その先の話は覚えていないの？

A 先生：だって……，自分が中学生の時に描いたことがあったから，ちょっとショッキングだなって……。

B 先生：……。そこだけが強烈に記憶にあるのね。

花 輪：なるほど……。君たちと話していると，つくづく反省させられるよ。授業改善をしないと……ね。では，線遠近法をはじめとする「空間表現」の技法のおさらいから始めよう。

B 先生は絵画生だったね？いくつくらい覚えているかな？

B 先生：消失点が1点，2点，3点の透視法は線遠近法といいましたよね。それ以外に空気遠近法と……，あと鳥瞰図もありましたね。

花 輪：それ以外にも幾つかあるんだ。」代表的な技法をまとめておいたから二人とも参考にしてね。

2 人：ありがとうございます。

花 輪：ここではそれぞれの技法について詳しい解説はしないけど，すべて先人たちが発見したり編み出したりしてきた人類の遺産なんだよ。中学校美術で扱いたい学習内容の一つだね。では，遠近法などの「空間表現技法」の扱いについてポイントを絞って解説していくよ。

現代絵画に観られる空間表現技法例

- ① 線遠近法
(いわゆる消失点をもつ透視法)
- ② 空気遠近法 (遠景になるほど不明瞭)
- ③ 上下遠近法 (主に大和絵・屏風絵)
- ④ 鳥瞰図 (主に絵巻物・絵物語)
- ⑤ 三遠 (中国の山水画がルーツ)
- ⑥ 超遠景 (近接拡大を遠景に添える)
- ⑦ その他

Point 1 技法は表現の工夫のための選択肢

遠近法は，いわゆる空間を表すための方法です。美術で求められる「技能」は「創造的技能（工夫）」ですから，自分が表そうとする“こと”，つまり主題をより効果的に表すには，どの技法を選択するかということを生徒が考え，取り組む活動が保障されなければなりません。

遠近法に限ったことではないですし，そうしたプロセスがないと単なる技能習得の授業になってしまいます。

もちろん様々な技法を試すなかで主題が明確になる場合もあると思います。

まずは生徒が考えて選ぶこと，選びながら考えることを大切にしたいものです。

A 先生 :なるほど……と言いたいところですが、その場合、評価ってどうなりますか？

B 先生 :Q1 の評価の話、わかってないのね……。

花 輪 :一事は万事というか……。すべてが関連してくるんだよね。

花 輪 :だから、クラス全員が同一の技法で同じようなモチーフを描く授業が相応しくないっていつていたんだよ。

B 先生 :先生説明してくれてたのに……。

A 先生 :いや……確か休んだのかも……。

B 先生 :だったらこの話題にはなっていないでしょ！

花 輪 :まあまあ……。しかし A 先生はこのことが強く印象に残っていたんだね。

もちろん、それぞれの技法には、それ特有の効果や約束事があるよね。でも、一つの技法に対して全員に Can を求めるものではないから、それらは大まかには知る必要もあるけど、自分が技法を選ぶ過程で必要なものを試せばいいんだ。美術室前の廊下に、空間表現

Point 2 悪意のない作品主義の罪

生徒の作品を並べて、作品の完成度や丁寧さで ABC と採点することは相応しくないことは Q1 で説明したとおりです。

今でも「～を表現（工夫）することができるといった目標設定を目にすることがありますが、誤解を恐れずにいうと授業設計の根本がズれています。まずは生徒に求めることが Can ではなく Do だということへの理解が必要です。

一点透視法で絵が描けたかどうかを評価するなら、その授業は一点透視法で絵を描かせることが目標となってしまうため、美術の先生は「絵を描かせる人」になってしまいます。そうすると、生徒の主体性が発揮されないばかりか、方法論をいかに理解させるか、いわゆる描き方・つくり方が指導の重点になります。残念ながらそれは作品主義の授業です。

Can が授業の目標になることはないのです。



Point 3 「生徒一人ひとりの自分なりの主題と工夫」を見つけられるようにすること

遠近法を扱う題材では、生徒一人ひとりが自分の空間表現を考えて、工夫をすることが目標となります。そうすると評価規準は「空間表現の主題を考えている」、「空間を工夫して表現している」となるでしょう。一人ひとりの表したいことやイメージが同じ事はありませんし、その実現のために描くのです。

一つの技法で生徒を縛ることは相応しくありません。表現の主題と技法を一人ひとりが考える授業を目指したいものです。

の技法を提示しておくことだって効果的だと思うよ。

A 先生 :なるほど……。

B 先生 :クラスの人数分の作風が生まれる授業が理想なんですよ。

花 輪 :もちろん。

だから、先生が「描かせる」授業ではなくて、生徒が「感じるようにする」とか「気付くようにする」というような立ち位置から授業を考える必要があるんだ。

例えば、西洋と東洋の空間表現の特徴を導入で扱っても面白いと思うよ。でも、1 年生には早いかも……。ね。

Question 03

「レタリング」の授業は どうすればいいの？

B 先生 : 私は2学期に1年生でレタリングの授業を考えているんですけど、さっき先生が言っていた「生徒の人数分の作風」って、無理がありますよね？

A 先生 : 一人ひとりが選んだ文字が違えばいいんじゃないの？生徒が選ぶことが大事でしょ？

B 先生 : 作風って、それがその人とわかるような特徴のことなのよ？

A 先生 : じゃあ、自分の名前でもいいんじゃない？自分の中学の時描いたし！

B 先生 : あんたねー……。

花 輪 : はいはい。A先生のトンチンカンぶりが演技でないなら、単位を認めた責任を感じるよ……。それもあって勉強会を主催してるんだけどね……。

A 先生 : アハハ……。

花 輪 : さて、レタリングは私の学部の授業では詳しく扱ってないんだけど、そもそも学習指導要領や教科書では「レタリング」という言葉は出てこないんだ。

B 先生 : そうなんですわね……。結構ショックです。

A 先生 : レタリングでないとすると、どうなってるんですか？

花 輪 : 今は「文字のデザイン」として扱われることが一般的で、数年以上前からロゴタイプやフォントデザイン、タイポグラフィなどと一緒に扱われているよ。
ここではまず、「文字のデザイン」の位置付けから確認するね。

A 先生 : そのくらいは知ってます！「伝達」のためのデザインですよ？

花 輪 : そのとおり！ちょっとホッとしました。

伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出すことが求められていたね。ちょっと脱線するけど、それ以外のデザインには何があったっけ？

B 先生 : 「構成や装飾の目的や条件を基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出す」とことと、「使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出す」ことだったと思います。

A 先生 : 教員採用試験の勉強でやったなあ。

花 輪 : よく覚えていたね！

デザインの「主題」の位置付けがはっきり示されたのが今回の学習指導要領の特徴の一つだったね。デザインの学習では、この3つを年間指導計画に位置付けて、生徒の未履修をなくすように気をつけなければならないね。勿論、ファインアートとの切り分けは前提だけど……、ここで触れると長くなるから、「文字のデザイン」に話を戻そう。では、ポイントを絞って解説していくよ。



Point 1 文字のトレースだけでは、
創造的な技能や鑑賞の資質・
能力の発揮にならない

「文字のデザイン」は、ロゴタイプやパッケージデザイン、ポスターなどの視覚伝達デザインにおいて、特にその印象を左右するものです。伝える相手や内容と、形や色彩などの造形要素のもたらす効果を考えたり、工夫したりすることに、その教育的意義があります。

既成のフォントをトレースするだけでは唯一解を目指す“臨画”と同様で、生徒が工夫をする余地が無いばかりか、デザインの高さや楽しさを味わうことはできません。

Point 2 鑑賞の資質・能力の発揮

明朝体は横角が細く縦角が太くて、横角の右端や曲がり角にウロコ（セリフ）があり、ハネやハライなどは筆で書いた感じが様式化されていること、ゴシック体は横角と縦角の太さの差が少ないことなどの特徴は、生活に密着したフォントの基礎として生徒自身が気付く必要があります。そういったことに気付きながら鑑賞の資質・能力を発揮して、洗練された感じや力強い感じなどを個々人が感じたり味わったりすることが重要です。

トレースが目的化した授業では、上記の特徴は注意事項として示されてしまいます。

* IoT や AI、クラウド、ドローン、自動走行車・無人ロボット等のテクノロジーを用いてこれらの問題を解決し、一人ひとりが快適に暮らせる社会を実現する、いわゆる「超スマート社会」を指す。学校教育においても、Society5.0の実現に向けた教育の在り方が問われている。

* 第5期科学技術基本計画「第2章 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出の取組」より

Point 3 人間としての強みを考える

美術に限らず Society5.0(*)の実現に向けた教育の在り方が問われています。PCのワープロソフトやプリンタに代替可能なことは任せて、感性を働かせながら、文字のイメージをより効果的に伝えられるようなフォントそのものをデザインしたり、伝えたい内容をより効果的に伝えるために、読みやすく、美しく文字を配置する、時には文字そのものをデザイン要素として活用するなどの活動が考えられます。

「文字のデザイン」技法の代表例

- ① 行や段組、文字の大きさや配置を変える
- ② 文字の要素をバラバラにする
- ③ 色を変える
- ④ 一部の形や色を変える
- ⑤ 窓の形を変えたり色をつける
- ⑥ 輪郭線や影をつける
- ⑦ 文字と文字の一部をつなげる
- ⑧ 違うフォント同士を混植する
- ⑨ モチーフを入れる
- ⑩ その他

花 輪 : 本当は君たちに教材研究をしてほしいんだけど、技法の例もサービスしておきますね。

A 先生 : 遠近法と同様に、主題に合わせて技法が選択できればいいんですね？

B 先生 : ちょっとヒントになりました。2学期の授業についてじっくり考えてみようと思います。

花 輪 : 例えば、ひらめいたイメージをどの文字に援用できるかという視点で、『レタリング字典』を活用する方法もあるよ。一人ひとりの資質・能力の発揮を大切にしてくださいね。

発刊によせて

本誌を手にとって頂き、誠にありがとうございます。

かつて私も皆さんと同じように、中学校の美術科教諭として「美術の素晴らしさを生徒たちに伝えたい」と日々奮闘してきた時期があります。

しかしその間、様々なことを深く理解して生徒の指導をできていた訳ではありません。今考えると、当時の生徒たちに謝りたいことも数えきれませんし、そして今もまだ理解が及ばないことも多々あると自覚しています。そんな私の解説には説得力がないかも知れません。

「美術なんてやっても意味がない」とか、「美術は金になるか」などと生徒からいわれたことは、一度や二度ではありませんが、そんな彼らとの出会いが、私に「美術の授業」を考えるきっかけを与えてくれたのだと思っています。

大学の教員となってから、多くの先生から中学校美術の授業に関するご相談・ご質問を頂いてきました。特に、若手の先生は一人職として、教科経営全般に関することや学習指導、評価、生徒との関わり、美術室等の環境構成等、悩みは尽きないことと思います。

本誌では、若手の先生や、複数の大学で出会った学生の皆さんから寄せられた問いに対して、卒業生との対話形式で解説を試みました。

たくさんの生徒や学生に育てて貰った私が、これまで考えてきたことを、少しでもお伝えできれば幸いです。



著者プロフィール

花輪 大輔

(北海道教育大学札幌校 准教授)

平成9年北海道教育大学釧路校（美術教育）卒業、平成18年北海道教育大学大学院札幌・岩見沢校教育学研究科（美術教育専修）修了。

大学卒業後、北海道の中学校教諭として採用され釧路管内の公立中学校に勤務。平成18年より北海道教育大学附属釧路中学校教諭、平成24年より北海道教育大学札幌校専任講師を経て、平成28年より現職。研究領域は図画工作及び美術科における教科経営論。

現在は本務の他、北海道教育大学岩見沢校、北翔大学教育文化学部、札幌大谷大学芸術学部にて中等美術科教員養成の教科指導科目を担当。

第45回教育美術佐武賞佳作賞（平成23年）、第93回道展北海道美術協会賞（平成30年）受賞。

日本文教出版「中学美術（令和3年度版）」及び秀学社美術資料（北海道版）著者。

【お問い合わせ先】

hanawa.daisuke@s.hokkyodai.ac.jp

011-778-0968（研究室直通）

札幌市北区あいの里5条3丁目1-5

（美術科教育学研究室）

B301 相談室 vol.1

日文教授用資料

令和2年(2020年) 7月 1日 発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33517

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690